

新型コロナウイルス感染症への対応下での

労働実態・教育研究状況アンケート 報告

期間：2020年9月18日～2020年10月31日

回答数：教員 54名

事務職員・技術職員 41名

目次：教員 1 - 16

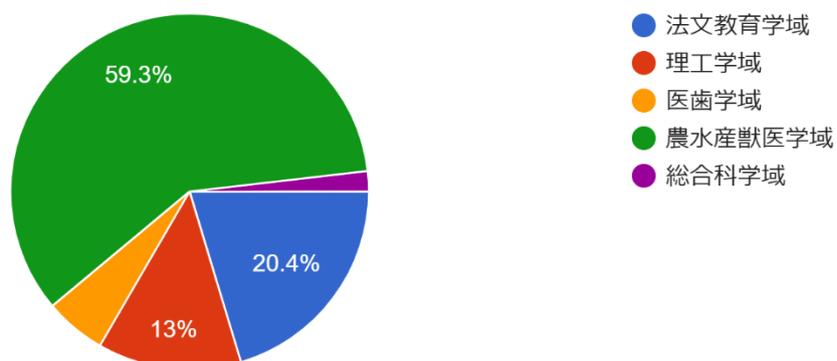
事務職員・技術職員 17 - 23

教員

I あなたの所属等について

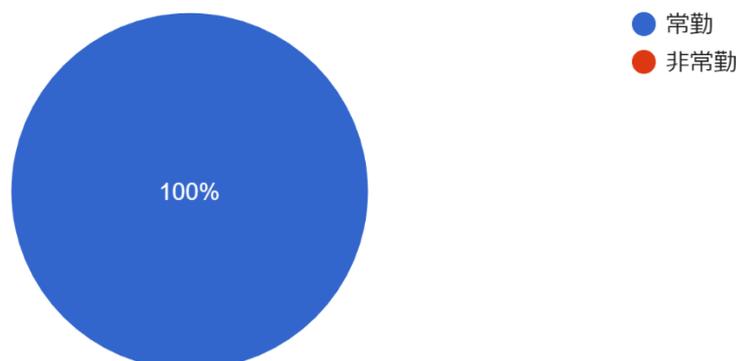
1. 所属（単一回答）

54件の回答



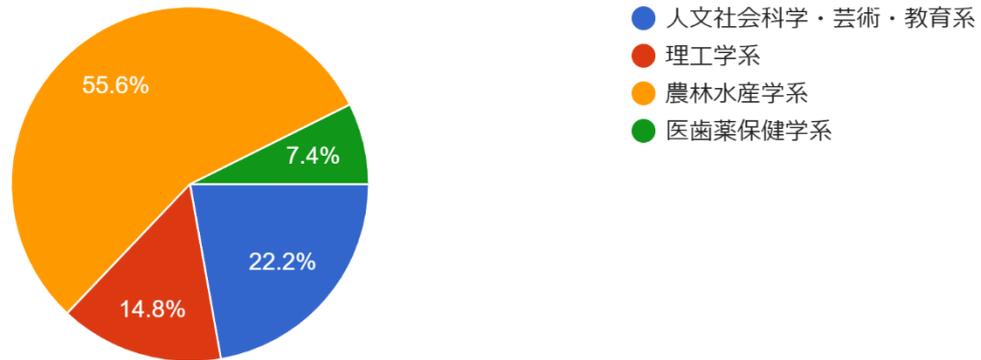
2. 雇用形態（単一回答）

54件の回答



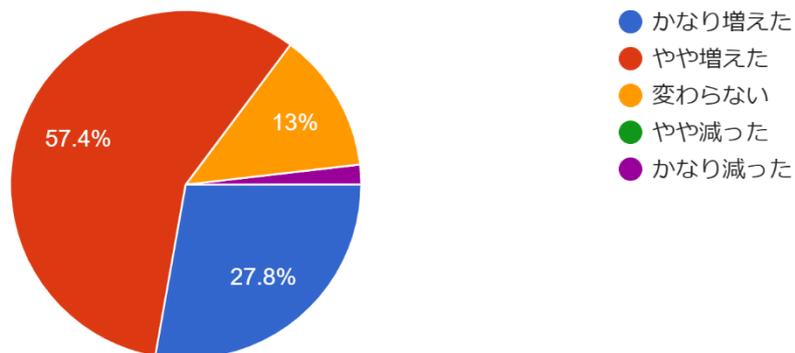
3. 専門分野等（単一回答）

54件の回答

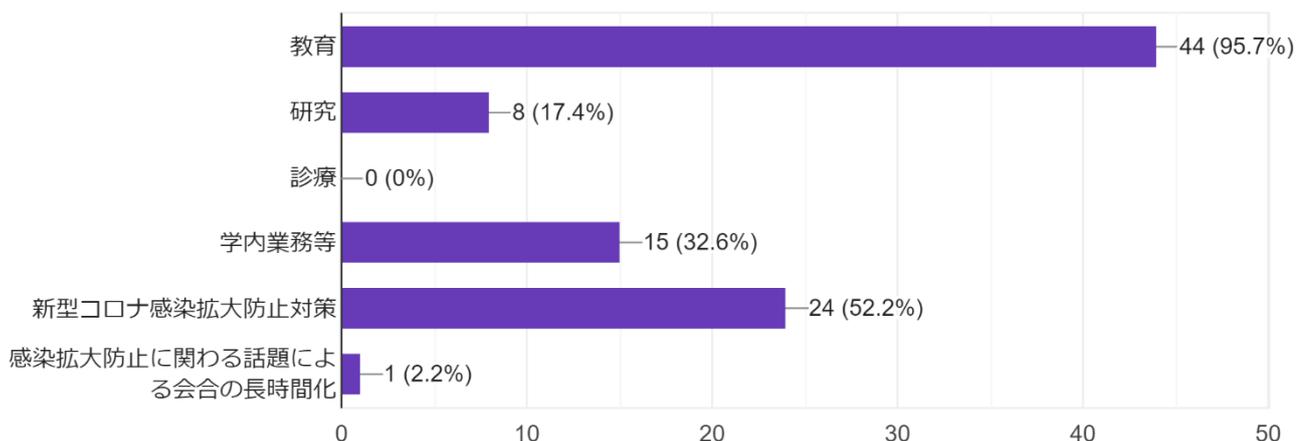


II 業務負担全般について

4. 新型コロナウイルス対応下での教育・研究・診療・学内業務等を含めた業務負担は、例年と比べてどうでしたか？（単一回答）54件の回答



5. 質問4で「かなり増えた」「やや増えた」と回答された方で、業務負担のうち特に増えている内容は何ですか？（複数回答可）46件の回答



質問5の回答理由をお聞かせください。(37件の回答)

授業の遠隔化対応にかなりの時間を費やした。

講義で使用するオンライン用の資料の作成などに時間を割いた。

オンライン講義の準備及び実験・実習の感染防止対策

遠隔授業に対応させるため、課題の提出量を増やしたので、その評価に費やした時間が大幅に増加した。

オンライン授業を「課題提出型」のみでおこなう教員に対する学生の不満をどう払しょくできるかに、かなり気を遣いました。「課題提出型」しかしない授業は学生から評判がすこぶる悪く、オンラインによる双方向型授業を実施した結果、かなり疲弊し、研究活動に傾注すべきエネルギーを使い果たしました。科研もあるのに調査にはいけない、とはいえオンライン授業のストレスで文献研究を進める余力さえない、といった悪循環でした。オンライン化で天国をみた教員と地獄をみた教員がいたとすれば、精神的なエネルギーの喪失状況を踏まえると、間違いなく自身は後者です。

教育については、教材を動画化してオンデマンドで置いておかなければならず、その教材作りにかかなりの時間を割いていることや学内業務についても zoom 会議の設定や資料作りに例年よりもかなり時間を割いていることから。

遠隔授業の準備に時間がとられる。卒論の進捗状況が例年と違い遅れ気味でそれに対応するのが精神的にかなり負担を強いられる。大学院生の論文指導が例年よりも時間がかかる。

遠隔授業の準備と対応

会議数と授業準備時間の増加

onnrainn jugyou no junbiba taihenn

従来の授業準備に加えて、遠隔での対応を強いられた

新型コロナウイルス感染拡大防止策の実施決定が遅く、講義実施の数週間前から急遽オンライン講義の準備対応に当たる必要があった。また、テレワークが許可されたのも4月に入ってからであり、ウイルス感染の不安も持ちながら過ごすことになった。

会議が激増した。学生対応も負担が増えた。

遠隔講義が実施される場合の準備を並行して行っておく必要があるため

オンデマンドで授業をしているため、ビデオ教材等を作るのに時間が掛かっている。また、学生からの問い合わせメールも増えたため、その対応にも時間がかかっている。

オンライン講義対応のための教材づくり、学生の代わりに研究を進める必要がある

オンライン授業の準備に時間がかかる

学生が提出する課題に対するフィードバック（対面で済ませられれば短縮できる内容もある）、対面授業実施要望に関する議論の長時間化

①オンライン授業という新しいかたち作り（慣れれば楽しい）。②感染防止対策作り（実習担当として）

オンライン授業に対する準備・対応を担当したため。

オンライン用の講義資料に変更

オンライン講義に向けての資料準備

遠隔授業用の資料作り直しや、ソーシャルディスタンスを保って学生が受講できる授業形態の準備をしたため。

オンライン授業や学生とのやり取りに費やし時間と能力、研究室での新型コロナ感染拡大防止対策へのスペース確保の工夫、消毒品の増加などで負担が増加した。

留学生への対応方法の議論

授業がオンラインになったことで、準備に追われたり、移動制限により実験スケジュールや学外調査が延期になり、特定期間に集中した。

遠隔授業のための講義用資料（PPT スライドに合わせて説明文を付ける等）を別途準備する必要があった。

遠隔授業の準備のため

感染症対策として過剰なやり方が指示され、それに対応するために手間が増えた。

遠隔に対応した資料作り。

オンライン授業のための授業資料のアレンジ、体温計や体調管理表などの準備

実習・講義内容の検討・変更

講義をオンライン用に再編成した。オンラインと対面の両方に対応するように講義を準備するのに時間がかかる。コロナウィルス対策で学生が研究のために大学に来れない。

新型コロナ感染拡大防止対策のため、オンライン講義への変更による業務の増加

オンライン講義の準備

慣れない機器の扱い方やオンライン授業用に授業内容を組み替えるなど準備にかなりの時間を使った。

遠隔授業に伴う準備

6. 在宅勤務における業務遂行は例年の通常業務と比べてどうでしたか？（単一回答）

53 件の回答



質問6の回答理由をお聞かせください。（28 件の回答）

在宅勤務は行いませんでした。

無駄な会議、会議を長引かせる年配教員あるいは中堅教員の愚痴を聞かされる機会が激減し、精神衛生上非常によい形態でした。会議で発言すべきか、雑談で済む話ではないか、といった対面会議特有のストレスから解放され、在宅勤務の増加にもなって会議の形態が激変したことが「スムーズに対応できた」最大の要因です。結局本当に無駄なことが多かったことを露呈させてくれたのが在宅勤務でした。

資料等が大学にあるので、なかなか在宅のみでは難しいところがある。

在宅で気を遣う以外は職場とあまり変わらないため。

リモートワークの環境が整っていないため。

wi-fi 環境を整えていたため

shigotonoryouga hueta

そこに時間をかけた分の成果はあったと思う

たまたま研究活動を中断している時期と重なったためさほど問題なく在宅ワークに切り替えることが可能であったが、もっと早い段階から在宅ワークの検討や推奨をしてもらいたかった。

自宅でもなんとか対応できたが、図書資料は自宅においていないためその意味で限界もあった。

実験室に入らなければ研究はできないため

コロナ以前から帰宅後自宅で仕事をしていることが多いため

大学に来なければアクセスできない研究データや情報が大量にある。在宅勤務はできるだけ回避してきた。

教員で自分だけの執務室があるため

研究室には大学院生と学部4年生がいますので、教員は在宅勤務できない状態となっています。

学生も在宅で指示命令を文書で伝えるため忘れ、誤解が減った。

自宅から学内システムにアクセスできないこと、書類の一部をメール提出できないことから、事務手続きが滞る。

やはり家庭では仕事できる環境が整備されていない。

Zoomによる講義は、教室での講義とほぼ同じです。しかし、研究はいつものようには機能しませんでした。

業務用PCで管理している実験データ等を研究室外に持ち出すことを避けたかったため
確認会議等は、出かける必要がなくなり、良くなった。

日ごろから、研究室以外の環境でも仕事ができるように環境を整えているため

教育・研究に実験・実習が必要不可欠なので在宅勤務は不可能。

全ての資料を大学に保管している。実験が出来ない。学外での通信手段の確保。

研究は在宅でできない

在宅業務で実施可能な業務を在宅業務として行ったため

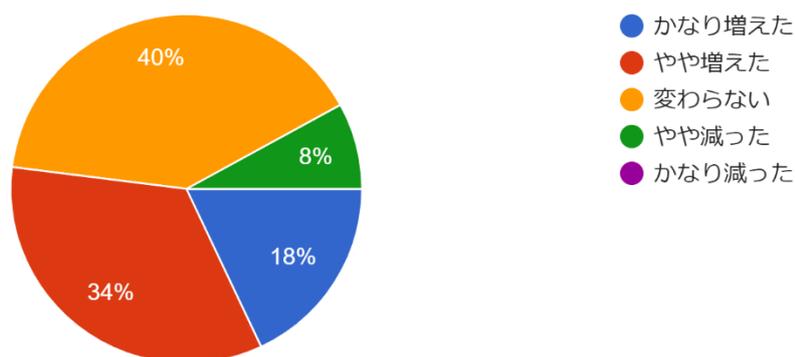
自宅でも対応できるように自費で設備を整えた。

大学での勤務は個室であるため他人への影響は少ない。在宅より大学での勤務が効果的である。

7. 新型コロナ対応及び在宅勤務における時間外・深夜・休日勤務は例年の通常勤務と比べてどうでしたか？

(単一回答)

50件の回答



質問7の回答理由をお聞かせください。(29件の回答)

授業の動画録画作業でかなりの時間を費やした。

講義で使用するオンライン用の資料の作成などに時間を割いたため、少し増えました。

激務であったという印象は全くない。ただし、オンライン化による疲弊はあった。

教材を作るのにかなり時間がかかったので。

例年も休日に準備などで出勤することがあり、相対的にはあまりかわらない印象だった。

遠隔授業の準備と対応に時間を要したため。

緊急な対応を必要とするケースがあったため

jugyou no junnbiga maniwawanai

遠隔授業への対応のため

会議が増え、自分の業務や研究が後回しになった為

教材を作るのに時間が掛かっている。

オンライン授業の準備、課題添削のため

特になし

学生の出校停止時期と実験植物栽培時期が重なり、修論、卒論研究5名分の栽培をすべて一人で行ったため。植物には栽培適期があり、それがずれると、そもそも植物が育たない。

オンライン授業に対する準備・対応を担当したため。

社会人向けの授業を中止したので120時間とその準備時間50時間が減った。

夕方遅くから会議等が入ることが減ったように感じる。

とくに、レポートの採点や質問への回答に多くの時間が消費され、業務時間内では処理できなかった

オープンキャンパスでのオンライン相談対応のため、時間外や休日勤務が増えた。

しばらくの間、学生の研究の指導がなかったため。

在宅勤務をしていないため

授業準備のため

イベントが減ったことと新型コロナ対応で増えたことが相殺されて業務自体はあまり変わらないように感じる。しかし、対面授業がいつ禁止になるかわからない状態で緊張感を維持しつづけていることは、精神的な疲労を増やしている。

専用の資料を短時間で新たに作成。

1日にラボに入室できる人数を制限したため、学生は3日に1回の登校となったが、私は土日も含めてフルで出勤しなければ学生指導ができなくなった。

実習・講義内容の検討・変更

講義をオンライン用に再編成した。オンラインと対面の両方に対応するように講義を準備するのに時間がかかる。コロナウィルス対策で学生が研究のために大学に来れない。

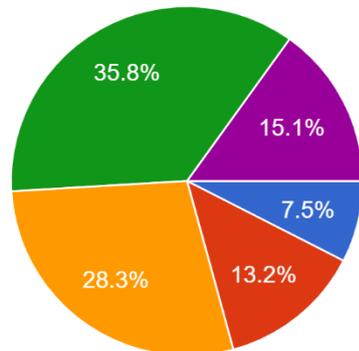
さまざまな準備に思いのほか時間がかかった。

質問5と同じ

Ⅲ教育について

8. 遠隔授業（講義）について（単一回答）

53 件の回答



- 対面授業と比べて良い授業ができた
- 対面授業と比べより良い授業ができたが、対面でのフォローが必要と感じた
- 対面授業と比べて同等の授業ができた
- 対面授業と比べて同等の授業ができたが、対面でのフォローが必要と感じた
- 対面授業と比べて不十分な授業しかできなかった

質問 8 の回答理由をお聞かせください。(39 件の回答)

遠隔授業を考慮して、例年よりも丁寧な授業資料を作成し、zoom での説明も丁寧に行ったため、講義に関しては例年の対面授業より充実したものになった。

Zoom で対応しましたが、学生の反応は悪くなかったと感じます。

学生アンケートの評価により判断したが、対面授業に比べ理解度確認が難しい。

学生の質問等に対するフィードバックをし難く、授業が一方通行にならざるを得ない。

全体授業終了後に質疑応答時間を取るようにしたが、残って質問をする学生は少なからずいた。やはり具体的な本や論文などを示しながら説明でないことや、学生が帰りたいのか帰りたくないのかという心の機微を読み取りながら対応することは困難であった。

講義は何とか水準を保てたと思うが、やはり、顔が見えない中で講義するのはむづかしい部分があり、宿題の出し方もかなり工夫が必要であった。

講義では集中力がかえって強くなる。ただし、聞く側が見えないため反応がわからないゆえの物足りなさが残る。

一人が大人数に対して話す講義は、遠隔授業と相性が良いと思う。

学生の理解度をその場で確認しづらいため。

donokurai rikai sitanoka wakaranaigakuseiga iru

アクティブラーニングを取り入れており、対面でないとやりにくい

遠隔授業の方が準備を多く必要とした分、学生にわかりやすく対応できたと思うことと、オンラインツールのチャットやアンケート機能を使ってリアルタイムで学生の反応を捉えることができるようになった点。

遠隔授業を 1 回行った。1 回目の遠隔授業で、遠隔授業を行うための環境整備や訓練が不十分なことが判明し、これで終わっているため。

学生の理解がどれだけ出来たか、遠隔は確認が難しい。

今のところ、対面授業時と同じような授業ができています。

学生の状況がわからない

課題添削、資料で対面以上に丁寧な説明を心がけたため。

受講生の勉学態度が例年より良い。

学生の反応や胎動が確認できにくい。

zoom による遠隔授業は意外と評判がいい。

遠隔授業の方が学生との距離が近づくように思いました。また、ゲスト講師を旅費をかけずに世界中のどこからでも呼べるという、とんでもないメリットがあることに気づきました。

学生の様子が分からないので

学生のその場での反応が見られないため理解度を推し量ることが難しい。

どの程度理解できているのか、反応が見えないぶん、フォローが必要と感じた。

チャットにより発言が増えたので理解度が瞬時にわかり、フォロー、手当が早まった。

直接対面しないことによるデメリットもあるかもしれないが、オンラインになったことで、大人数の講義室での講義よりも気軽に発言・質問してもらえるようになったなど良いこともあった。

問題に対する感覚や捉え方など、対面でなければ伝えられない内容が存在するため

学生が本当に授業を聞いているか、理解しているかについては顔を見ないと確認出来ない。

講義をしている間、学生と直接会うことが重要です。また、カンニングがないことを完全に保証して試験を受けることは困難でした。

PPT 資料とそれに合わせた説明文を manaba で配布し、それに対するレポート提出を持って成績を付けたが、その方法では学生が理解できているかどうかを十分に確認することができなかったと思う。

学生の様子が見えないので不安、学生からの意見を引き出す工夫をしなければならぬので大変。

オンデマンドコンテンツが意外と好評だったため

実験・実習が多く担当しているので遠隔は無理。

学生の反応がほとんど不明。

授業資料を改善した。

オンラインだと学生の反応が分からない

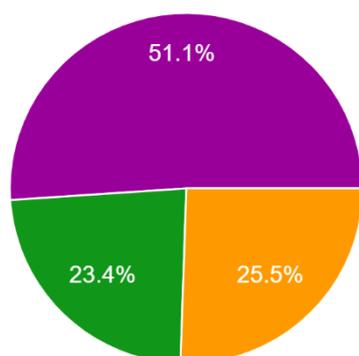
パソコンを使用する講義において、操作方法を伝えるには対面が必要な場面があった

講義を確実に聴いているか不明

知識伝達型の講義は概ねできた。ただ学生の反応がわからないため授業でフォローできなかった。

9. 遠隔授業（ゼミ、実験、実習）について（単一回答）

47 件の回答



- 対面授業と比べて良い授業ができた
- 対面授業と比べより良い授業ができたが、対面でのフォローが必要と感じた
- 対面授業と比べて同等の授業ができた
- 対面授業と比べて同等の授業ができたが、対面でのフォローが必要と感じた
- 対面授業と比べて不十分な授業しかできなかった

質問9の回答理由をお聞かせください。(35 件の回答)

遠隔でのゼミの実施は到底無理である。

できる限り、対面授業として行いました。

実験・実習での実地見学がほとんどできなかった。

受講者の人数制限をしたので、この時点で不十分と言わざるを得ない。

ゼミは仲間づくりの意味もあり、目的集団化に教育上の意義がある。出会えない学生集団は本当に気の毒であり、それが低評価の理由である。

学問の性質もあるかもしれないが、演習については、学生が板書しながら説明してそれを教員が訂正したり、補完しながら説明する必要があるので、遠隔では教育効果が半減してしまったため。

実習は特に理解が不十分なまま終わった印象である。

資料の解説などは、原資料を見ないと分からないことがあるため。

遠隔では質疑の対応に時間を要す場合があるため。

議論をする際、遠隔は対面よりやりにくい

実験は一定期間止めざるを得なかったもので、その分の遅れは10月に入った今でも引きずっている。

演習のうち、一部は例年フィールドワークを行っていた。しかし、コロナ禍によりフィールドワークを実施することができず、不十分だったように思う。

ゼミは学生の白板でのプレゼンテーションなどが必須のため、オンラインでは厳しかった。すぐに対面に移行した。

実験は遠隔授業では対応できない。ゼミはほぼ全て対面で実施。

実験、実習中研究設備などに直接触れるから遠隔ではできにくい。

ゼミについては、やはり対面での直接指導の方が望ましいと感じる。

実習が中止になった。大学の宿泊施設の定員減により実習を実施できない状態が続いている。専門分野の根幹をなす実習のため、このままだと卒業生の学位の質が保証できない。

ゼミは、誰でもどこからでも参加できるメリットから大きく膨らみました。反対に実習は体験なので遠隔ではできません。リアル体験の価値がそれだけ上がった感じがします。

遠隔授業はしていない

実習機材の詳細説明が遠隔では難しい

学生同士が話し合うことまで含めて、ゼミ、実験、実習の意義があるため

遠隔では実施していない。

不自由はなかった

グループワークなども、zoomを小さなグループに分けることで、問題なく実施できた。

ゼミや実習は動的な学習作業であり、体験などの感覚を教えることができない

学生実験室のサイズ制限のため、完璧な実験コースの実験を行うことは困難でした。

学生の自宅待機期間中、ゼミは行わず延期としたため。

学生の様子がわからないと、繰り返して説明する部分が理解できない。本当に理解しているか、わかろうとすると、manabaでレスポンスを用意しなければならず、大変。

研究室でのゼミの進捗が滞ったため

遠隔ではどうにもならない。やるだけ無駄だが、登校できない学生に必修の単位を取らせるために無理やり実施した。

実験が全く出来ない。説明資料の準備が時間的に不十分。

実験は大学に出てこれないとどうしようもない。

選択肢がなかったのだが、遠隔授業期間中は少人数のゼミは開かなかった。

パソコンを使用する講義において、操作方法を伝えるには対面が必要な場面があった

学生は議論に集中できていたと思われる。辞書や研究書などで補足ができない点が不自由だった。

IV. 研究について

10. 在宅勤務における研究について（単一回答）

46 件の回答



質問10の回答理由をお聞かせください。（35 件の回答）

無駄な会議が書面や zoom になったため、時間が有効に使えた。

在宅勤務を行っていません。

オンライン疲れ、移動制限によって県外調査移動は全面自粛した。そのため研究は全く進んでいない。

論文を購読する部分は支障がなかったが、実証分析で学外に出る際は少々支障があったため。

通勤時間や通勤にかかる疲労はないものの授業による疲れがずっと出ていたため。

他地域の資料所蔵施設へ出向くことができないため。

役職・業務が増えたため

遠隔授業の準備に時間をとられたため

実験ができなかったため

業務が増え、学生指導が増え、コロナのせいで実習調整に時間がかかり、思うような研究が、出来にくい。

現地調査ができないため、文献収集を中心に行わざるをえない状況である。

学生が登校禁止の間、自分自身で実験を進めたため

授業負担の増大のため

そもそも在宅で研究するという状況が想定されていない。論文執筆程度のことしかできないが、それでも作業する環境が整っていない。

学生の対応ややりとりの時間を研究に当てられたから。

在宅勤務はしていない。もともと研究はほとんどできない。

在宅勤務をしていない

出張が減ったため。

出張の規制

調査のため出張ができなかった

在宅勤務していません。

学生が大学に来られない時期があり、その時間分の実験ができていない

学校に来れないので実験が進まない

野外調査に行ける期間や遠隔の調査地に行くことが制限されたため

研究分野の内容により在宅勤務では対応不可能

大学院生がいなかったから。

在宅勤務するためにデータを持ち帰っていないため。

資料等が大学にあるため、それを適格に持ち帰ることができないため。

日ごろから、研究室以外の環境でも仕事ができるように環境を整えているため

在宅で研究は不可能。

研究資料の全てが研究室にあるため。

午前中3名、午後3名のラボ入室制限をおこなったが、学生は3日に1回しか来ることができないため、連続作業が必要な実験は全く取り組めなかった。

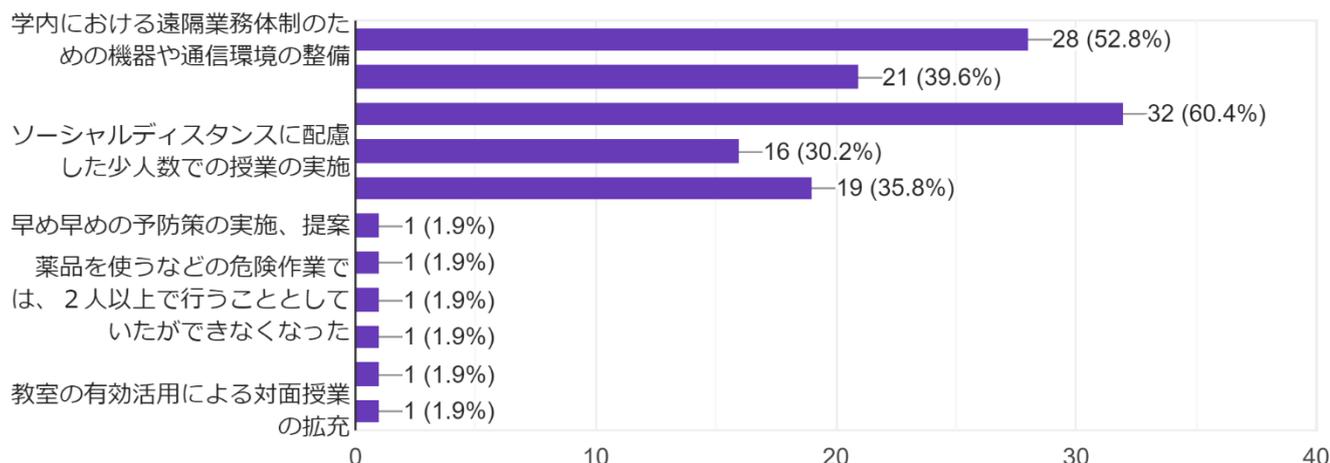
インターネットやパソコンの環境は以前と同じなので、研究も同じように進んだ

現地調査を必要とする研究が実施できていない。

電話や来室がないため集中できた。

1 1. 新型コロナ禍の中で教育研究体制の充実を進めるための課題について（複数回答可）

53 件の回答



①学内における遠隔業務体制のための機器や通信環境の整備 回答：28

②家庭内における遠隔業務体制のための機器や通信環境の整備 回答：21

③対面での教育研究のための学内のスペース確保や感染拡大防止設備の整備 回答：32

④ソーシャルディスタンスに配慮した少人数での授業の実施 回答：16

⑤ソーシャルディスタンスに配慮した教育研究のための教職員の増員 回答：19

⑥その他

- ・ 早め早めの予防策の実施、提案

- ・ これを機に無駄な会議を減らし、教育と研究にだけ集中できるシステムに大学を組み替えていけば充実化は進む道具や設備の問題ではない。慣例や慣習を手放さない人間の日常行動が大きな原因である。

- ・ 薬品を使うなどの危険作業では、2人以上で行うこととしていたができなくなった

- ・ 半数の人数で対面授業をするときなどに、誰が講義室に来るかや、遠隔で授業を受ける学生への配信が自動や簡単にできるようなシステムと機器の設置があれば良いと思う。それらを全部オーガナイズする手間を考えると、半数ずつの授業というのはなかなか実施できない。

- ・ 学生の反応を高めるにはどうするか。研究が必要。

- ・ 教室の有効活用による対面授業の拡充

1 2. 自由記述（20 件の回答）

すべてをオンラインで実施することは不可能と感じます。学生と直接接することは、教育上必須と考えます。

今回導入したオンラインシステムを、出張や台風等の時に積極的に使いたい。

課題を毎回出さないといけないのが辛かった。学生が提出に苦勞することもあり、提出された不備のあるファイルを変換したり、オンライン授業のためのノウハウを勉強するのに多大な時間を費やした。

コロナ禍で返って研究時間が確保できた面もある。本質はコロナではなく学内の研究環境の悪化であり、これを改善していかないと大学の研究が潰れます。

私個人は1月の時点ですでに危機感を持っていたが、大学としての対応指針が示されたのは4月であり、早い対応を心から望んでいた。裁量労働制の教員は、在宅勤務にすぐ移ることが可能であったと思うが、雇用している人たちのこと、学生への対応など、トップからの指針があった方が実行しやすかった。大学の大事な人的資源に安全な環境を提供することに対して、もう少しフットワーク軽く決断していただきたかった。

間違いなくオンライン会議だけでも大学運営は可能である。人事案件も各種判定もセキュリティに細心の注意を払えば基本的には可能なはずである。紙媒体での全員配布や大型スクリーンへの投影がオンラインよりも安全であるとは必ずしもいえないはずである。しかしそれが完全に安全であるという認識が通常のように思う。教育は学生ファーストに、研究は世界・人類・自然ファーストに徹底して取り組めるように、大学の無駄を減らす努力を進めましょう。

教室の人数制限が厳しすぎて2部屋に別れるなど支障が生じている。全員がマスクを着用している状況では「入試のときの受験生の配席」なみに制限を緩和できるはず。「一人でも陽性者が見つかったら全面登校停止」という対応も行き過ぎている。実験・実習の準備がすべて無駄になるかもしれないことを想定しながら授業を進めるのでは無意味に疲労する。「登校停止」の範囲を小さくすべき。

我々にとっては一過性のことであっても、教育研究とはこういうものであると学生が理解してしまうことに不安を感じる。

パソコンなどの遠隔授業のツールを貸与してほしい

大学のコロナ対策は部局に裁量を与えているが、全学基本方針では不都合が生じる特殊事情救済のために実施すべきである。しかし部局裁量によって、他部局よりも厳しい制限を課す例がある。例えば理工学研究科は全学での行動制限解除後も独自の行動制限を延長した。1部局だけが過剰な行動制限を実施しても感染症対策として意味がない上に、それにより実施できなかった受託業務などが発生し、対外的にも説明がつかない状況が発生した。（サークル遠征なども再開された時期に、理工学研究科は受託業務も禁止継続した）。また、授業対応も部局任せである。共通教育では基本的に遠隔だが、多くの学部では対面授業実施を制限していない。その結果、1, 2年生が相対的に対面授業の少ない状態が続いている。また、対面で実施される授業も多くある中、初年次セミナーなど議論を要する講義を対面で実施しないなどちぐはぐな対応で学生が困惑している。（大学が用意するZoom受講用の部屋は発声不可能）

今回のコロナ感染症流行はペーパーに頼っていた自分が頼らないで活動していくきっかけとなった。

オンラインが普通になったこの機会に事務から学生への連絡を、できるだけ教員経由の紙媒体でなく、オンラインで進めてほしい、就職状況調査や卒業証書の内容チェックなど。オンラインと対面講義が混在する時間割だと学生が受講に苦勞している。講義室での対面講義をZoomでオンラインで中継するのは、慣れると難しくないで、学生が受講方法を選べるようにするとよいと思う。共通教育の講義のほとんどはオンラインときいているので、少なくとも1年生向けの専門講義はそのようにするとよいと思う。

人事が停滞している中、新型コロナ禍により業務負担が増えたのでは一人体制の研究室教員はパンクしてしまう。

人手不足。予算不足。地域在宅看護学実習では、学外実習で自家用車を使っているが、実習場所が市内だということでガソリン代も出ない。昨年は自分の実習巡回で1000キロ以上走ったのに1円もガソリン代が出なかった。今年も同じ。特定の教員に負担がかかり過ぎだと感じている。毎日40~50キロ走り実習場所を約5箇所回っています。お昼もままならない環境で、これはおかしくないか？市外はガソリン代は出るが、積みり積みるとそれ以上の距離になる。車のメンテナンスも増えるのにおかしな決まりである。早急に改善

して欲しい。今職員を減らす方針があるらしいが、これ以上人を減らしてまともな教育が出来るのか疑問。手がかかる学生も増えてきている。ますます丁寧な対応、教育が必要。あれもこれも教員に押し付けてませんか？管理職は現実がわかっていないのではないか？こんな状況で研究費稼いで頑張れって???

せっかく遠隔授業でやる方法を身につけたので、ただもとの対面授業に戻すのではなく、両方のいい点を活かした方法を考えたいと思う。

セキュリティ問題があることも理解しているが、自宅から学内システムにアクセスできない件をもう少しどうにかしてほしい。

突然のコロナウィルス禍で対応が後手に回ったことは仕方なかったと思われるが、その対応については、講義と演習・実験を分けて対応する等、学生の教育効果も含めて総合的に考えていくべきだと思います。また、遠隔授業をやるための技術的サポートのできる職員の増員は必要だと思います。

遠隔授業は対面授業の代替措置であり、非常時の対応でしかない。感染拡大地域でも、コロナ禍に対応して対面授業の割合を増やしている大学は多くある。時間割の組み換えなど、柔軟な対応を望む。

リモートでもできる部分があるが、学生が積極的に考えを出してもらったり、質問してもらうことが重要、それを引き出す努力するには、教育能力のなさ、やり方がわからないという点で難しいと感じている。

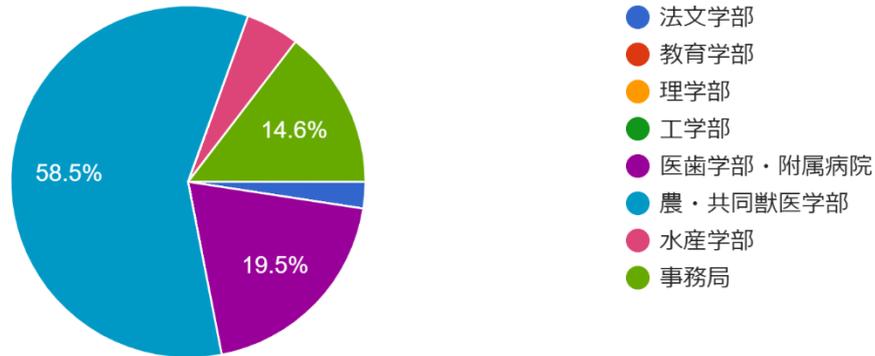
同じ科目名で開講される複数クラスの授業間の均一化に固執して、感染拡大防止対策と相まって思い通りに授業展開ができないことが、心理的な負担になっている。

事務職員・技術職員

I あなたの所属等について

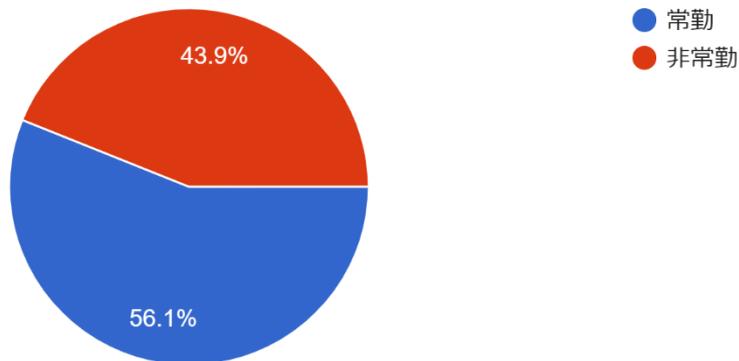
1. 所属（単一回答）

41件の回答



2. 雇用形態（単一回答）

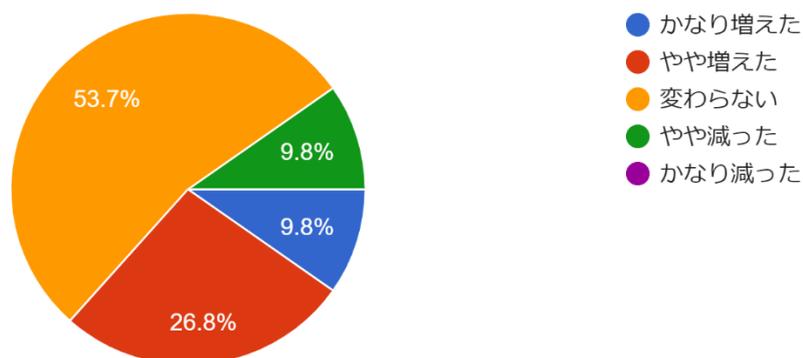
41件の回答



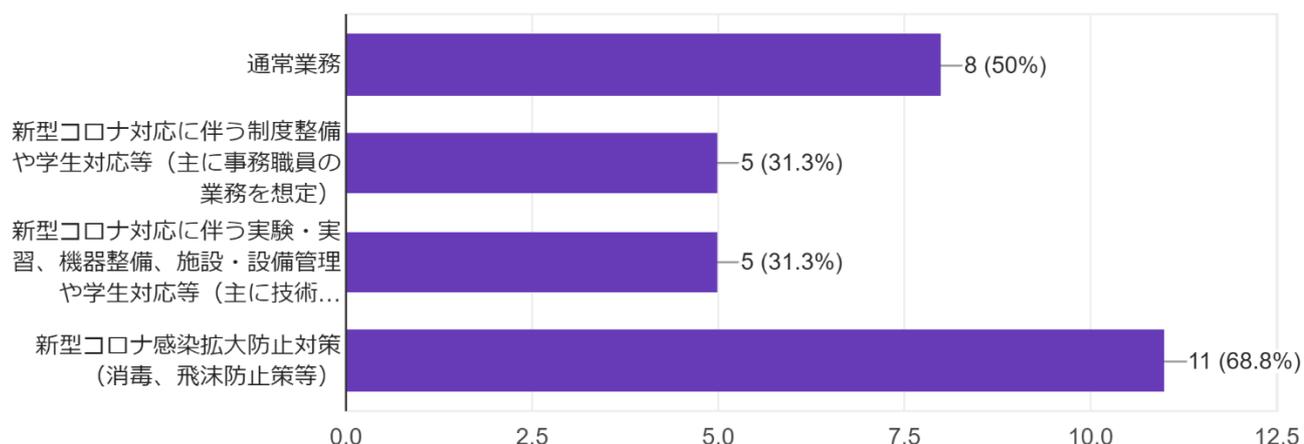
II 業務負担全般について

3. 新型コロナウイルス対応下での業務負担は、例年と比べてどうでしたか？（単一回答）

41件の回答



4. 質問3で「かなり増えた」「やや増えた」と回答された方で、業務負担のうち特に増えている内容は何ですか？
(複数回答可) 16 件の回答



質問4の回答理由をお聞かせください。(7 件の回答)

内での安全対策を決めて消毒等行っているが負担となる事は無い。

通常業務が増えた

重症患者が一般病棟に多くでてくるようになった。

新型コロナの影響で入院患者への面会が禁止となり、新たな手続きや制度が加わり業務の負担が増えた。また、感染防止のための消毒、飛沫防止を徹底したが、マスクやガーゼ、アルコールなど必要物品が品薄な中での業務となり負担が増えた。

実習対応についてのマニュアル作りや担当教員との確認作業。学生が使用した道具の職員による消毒作業の手間。

感染予防対策に関する業務がプラスされたことで、すべての業務負担が増えた。

WEBオープンキャンパス 講義室管理 ・消毒液管理 ・対面授業講義室の設定 ・オンライン授業受講可能な講義室のお知らせ (日によって変動)

5. 在宅勤務における業務遂行は例年の通常業務と比べてどうでしたか？ (単一回答)

40 件の回答



質問5の回答理由をお聞かせください。(20件の回答)

特に問題はなかった

在宅勤務は、パソコンをつかっての業務ができないので、資料を持ち込んでの自己研修を行った。

職員によりネットワークやPCの環境が整備できていない

短期間の在宅勤務や分散勤務で自分の場合は困る事はなかった。

特になし

業務システムの使用や現物の取扱いができない環境であったため。

自宅だと資料が足りないこともあった

業務量がそれほど多くないため

在宅勤務は2週間程度で隔日のため

在宅ではできない業務だったが、実習や農産物販売もなくなり業務には支障はなかった。

在宅では業務に係る環境が整っていない為

附属農場において交代勤務を実施。デスクワークについてはたまっていたデータ整理などを進めることができた。現場の業務は半数の人数でしたので、滞った。

作業現場が野外で、現地でしかできない事が多いため。

通常業務で普段から、PCでの作業が主であり学内ネットワークでの接続も必須ではなく、自宅でPC環境が整っていたため。

在宅でできる事が限られているため

システム入力や、紙媒体での提出物は在宅ではできないため

ファイル整理程度しか行えないため

基本的にフィールドワークが主な業務内容なので、在宅勤務はあまり意味がないように思えた。

資料がない、システムが使えない

職場でなければできない業務のため

6. 在宅勤務の環境整備について伺います。(単一回答)

28 件の回答



質問6について何かご意見がございましたらお聞かせください(9 件の回答)

特になし

在宅勤務を”指示”するのであれば必要な機材(もしくはその費用)は、大学側で準備するか、もしくは(職員側自己負担であれば)雇用契約や事務規則等にその旨明記した方がよい。(例えば、大学の事例で学生に対して「PC 必携」を義務付けしているところもある。職員についても在宅時の機材自己負担させるなら規則をそのように変更した方がよい)

短時間勤務なので午前の3時間勤務で仕事を済ませPCは必要なかった。自宅ではスキル向上のための課題があった。

今後在宅勤務を推進していくのであれば、まず環境整備を行うことが必要。

今後のコロナの状況や新たな感染症のため環境整備を進めていく必要がある

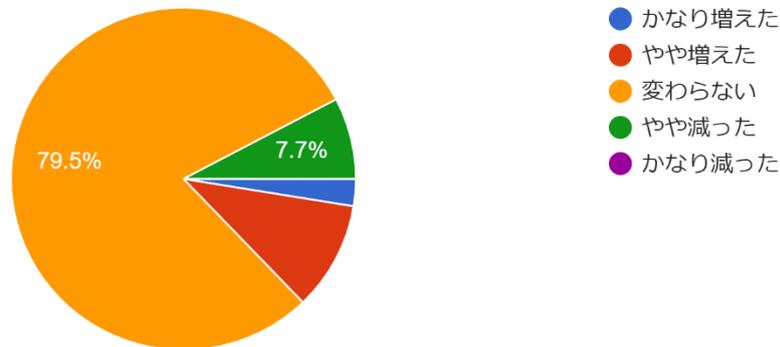
PCの支給があるのであれば利用したい。

在宅での業務を余儀なくされるため、それに応じた環境は整備すべき

現在所有しているPC等が対応するバージョンであったため問題はなかったが、全てを自費で負担している場合は、その対応等に自費負担がないよう検討が必要と考える。

7. 新型コロナ対応及び在宅勤務における時間外・深夜・休日勤務は例年の通常勤務と比べてどうでしたか？(単一回答)

39 件の回答



質問7の回答理由をお聞かせください。(16 件の回答)

イベントの中止が増えたものと思われる

時間外・深夜・休日勤務は行わない。

そもそもテレワークというのは「勤務時間帯」に縛られないところに利点があるのでこの設問はおかしい。今回のテレワーク対応でも何故か「8:30-17:15」を勤務時間として残業は認めない等の指示があったが、上層部の時代錯誤な考え方、感覚に頭痛がしたものである。要は、ある一日の在宅勤務が4時間だけであったとしても月単位では必要な成果が出ている、ということであればそれでよいはず。「一日単位業務時間」をいちいち気にしなくてはならないようでは本学では将来的にも有効なテレワーク導入は不可能である。

短時間勤務なので時間外はない。

今年から働いているため

icuからの押し出しが増えた

コロナ病床ではないため特に勤務形態に変化はなかった。

新型コロナウイルス対応の業務が増えたためと、在宅勤務により処理できなかった業務を出勤日にまとめて行わなければならなかったため。

なるべく時間外に仕事をしないように言われているので、時間外にならないようにしている。

業務量がそれほど多くないため

在宅勤務を行っていないため

特にコロナに影響されなかったため

コロナで増えてしまった仕事もあるが、無くなってしまった仕事もあり変わらなかった。

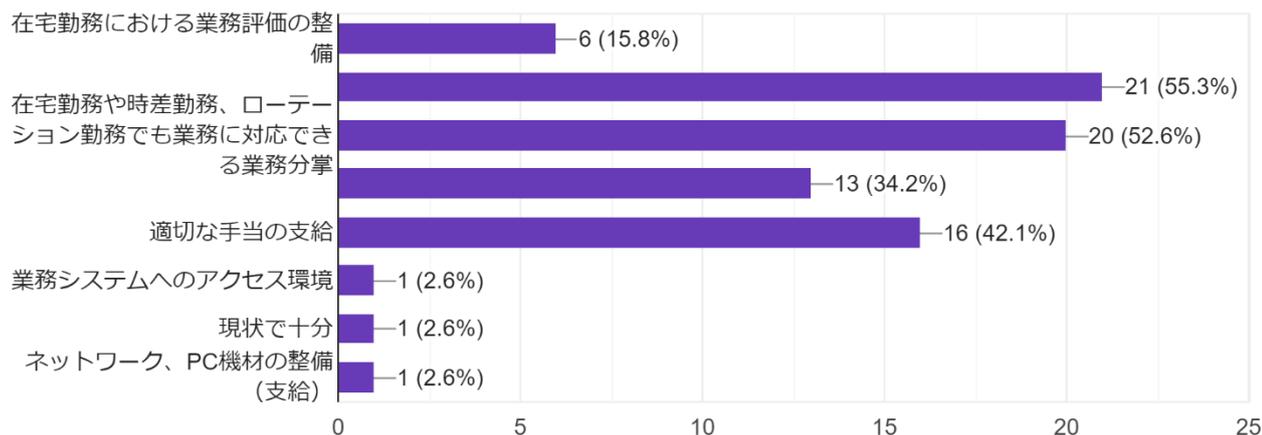
半分の人数で現場の管理をしなければいけなかった。午前・午後で交代のことが多く、午前勤務の場合午後勤務者との接触を避けるため、速やかに退勤する必要があり、できなかったことを午後勤務の時間外まで行うことが多かった。

野外での作業は日照，天候に左右されるため

今までにない対応・企画等の立案に時間を要する

8. 新型コロナ禍の中でのスムーズな業務のための課題について（複数回答可）

38件の回答



- | | |
|-------------------------------------|-------|
| ①在宅勤務における業務評価の整備 | 回答：6 |
| ②学内での勤務における3密を回避するための環境整備 | 回答：21 |
| ③在宅勤務や時差勤務、ローテーション勤務でも業務に対応できる業務分掌 | 回答：20 |
| ④在宅勤務や時差勤務、ローテーション勤務でも業務に対応できる人員の増員 | 回答：13 |
| ⑤適切な手当の支給 | 回答：16 |
| ⑥その他 | |
| ・業務システムへのアクセス環境 | |
| ・現状で十分 | |
| ・ネットワーク、PC機材の整備（支給） | |

9. 自由記述（4件の回答）

現在も職員間の接触を少なくする目的で部屋を分け過ごしているが、いざという時を考えると継続した方が良いと感じている。リモート会議をする機会も増えてきたが、アカウント取得について未確認だが教員・事務職員に枠があって技術職員はアカウント取得を認めていないという情報がある。本件について正しい情報が欲しい。また、少し落ち着いた今、リモートの運用方法や整備を行いたいので、学習する機会が欲しい。

桜ヶ丘などの病院業務のあるところでは、手当なども必要だと思う。

業務の不文律や暗黙の了解をなくすべき。もしくは正しく整備すべき

そのうちコロナは収束するだろうから元に戻るまでを乗り切ればいい、という空気を感じる。コロナ禍を機会に組織や業務の在り方を再構築しようという考えが大学上層部にあるのであれば、ぜひその将来構想計画の進捗について情報公開していただきたい。